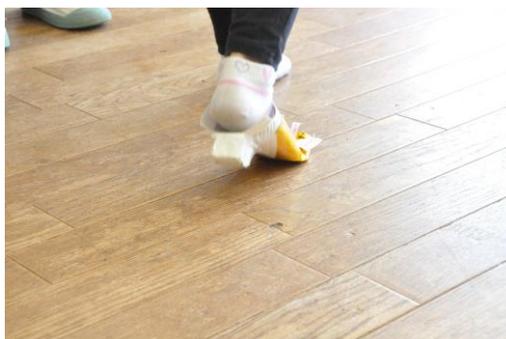


## 劇遊び「こびととくつや」

4歳児学年の10月頃は、お菓子屋さんや人魚姫になりイメージの世界を楽しむ姿が育ってきていた。人魚姫になりきって踊る遊びを繰り返し楽しんでいたAちゃんは、ある日、紙皿で作った靴を家で作り、幼稚園に持ってきた。それを見た他の幼児は、同じような靴を欲しがったり、かかとに木片をつけてヒールをつけたりして、靴作りをする遊びが始まった。



<牛乳パックで作った靴>



<木片でヒールをつける>

靴作りが始まった頃、靴作りをして遊ぶ幼児の姿を踏まえて、11月下旬の子ども会で行う劇の話として、「こびととくつや」の紙芝居を読んだ。お話を繰り返し楽しむ中で、子どもたちがこびとになって動いたり、歌を歌ったりした。また、教師が靴屋となり、靴を作る役を演じてみた。紙皿で作る靴は、素材が硬く、4～5歳の子どもには、扱いにくいと感じたので、教材研究の末、包装紙を使用することにした。包装紙には、多種の色、柄があり、子どもたちはそこからイメージを膨らませながら靴作りに夢中になった。



<こびとになって靴作り>



<包装紙で作った靴>

教師はまた、靴作りへの興味が深まるよう靴職人さんによる靴作りの実演を見る機会をつくった。初めて見る、素材や道具など子どもたちは興味津々であった。



<靴職人さんが来園>



<靴作りの道具>

そして、子ども会当日、子どもたちは、こびとになりきってお話の世界を楽しんで表現していた。「こびととくつや」という1つのお話から、ストーリーを友達と楽しむ、役になりきる、靴を作る、靴職人さんとの出会う、表現活動など、様々な体験活動に広げることができた。



<子ども会で道具をもって表現>